

## 平成 25 年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名 枚方市

実践研究校名 牧野小学校

【公開授業】公開日：平成 26 年 2 月 26 日

対象学年：第 5 学年

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 (単元名) Lesson 7 What's this?	(本時の指導の目標) 積極的にそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。
---	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・ICT 機器でピクチャーカードなどを工夫して提示し、児童の興味が高まるようにした。
- ・リズムボックスでチャンツを行い、本時で使用する表現を児童が意欲的に練習し覚えられるようにした。
- ・児童が活動内容について理解できるよう、担任と JTE によるデモンストレーションを行った。担任と JTE がそれぞれの役割分担を明確にし、児童が活発に授業にのぞめるよう楽しい雰囲気を作った。
- ・クイズの問題作りの活動の中では、辞書を使い、児童がいろいろな発想や工夫ができるようにした。わかりやすいヒントを考えることで児童の活動がスムーズに進むようにし、英語に興味関心を持てるようにした。
- ・全員が英語で質問と答えをいえるようにクイズ大会の仕方を工夫した。

(授業を終えた教員の感想)

- ・児童がクイズを作って出題したので、児童は、もっと知りたいという意欲がでていた。
- ・児童が生き生きと楽しそうにコミュニケーションをしており、見学者も楽しかった。
- ・児童は、チャンツを通じて英語の表現をしっかりと覚えていた。期待以上の成果に驚いた。

【研究協議会】

(テーマ) 小学校英語教育における評価のあり方について	(指導・助言者) 関西大学国際理解教育非常勤講師 田尻 利恵子氏
--------------------------------	--

(研究協議会で出された意見)

- ・クイズ大会のルールの説明は難しいということで、日本語で行われたが、英語で説明する場面もつくればよかった。
- ・クイズ大会のルールが明確なため、児童が目標を達成しようとしていた。
- ・児童がグループで役割分担を明確にし、なおかつ助け合いながら活動することでより英語を使うようになっていた。

(まとめ)

1. 活動内容などは、児童の前で実際にデモンストレーションをすることで理解させていき、複雑なところはパワーポイント等で視覚的に提示していく。
2. 外国語能力を総合的に評価する際に、身についた能力を活かして、実際の言語を使う場面で何がどの程度できるかを、段階別に記述したものを Can-Do リストという。
3. 授業の中で、教師と児童ができるという共通の目標に向かうために指導と評価に Can-Do リストを役立てる。
4. Can-Do リストを活用した評価が主流になってくる。